



熊本県議会議員

高島和男がゆく

令和7年1月号



新年にあたり



令和7年が幕を開けました。皆さまにおかれましては輝かしい初春をお迎えのことと存じます。また昨年も多くのご支援と温かいお声を頂きましたことに、深く感謝申し上げます。

昨年は熊本県にとってTSMC等の企業進出により地域経済の新たな活力を目的の当りにした年でした。試算では**今後10年間で11兆円を超える経済波及効果**が見込まれ、県全体の発展にとって大きな追い風となる**ことが期待されています**。一方で地域の豊かな自然環境や既存の産業とどう調和させるかが強く求められます。

特に**熊本の宝である豊かな水資源**については、TSMC進出がもたらす水需要の増加に対する懸念が高まっています。農業をはじめとする地域の基幹産業や住民生活への影響を最小限に抑えるため、県としても企業と地域が共存できる仕組みづくりを推進する必要があります。そこで水の循環を維持しながら、将来の世代に引き継ぐための持続可能な取り組みとして、地下水の水位を県民が常に可視化できる設備の運用を12月末から開始しました（12月20日執筆）。また水質保全に関しても企業に対する排水対策、県民への情報発信をより強化します。

加えて、菊陽町周辺をはじめとする交通渋滞の深刻化、地価や時給の急上昇による農地の減少、企業の人手不足も顕著になっていきます。悪影響を最小化しつつ果実をいかに長く、いかに多くの県民に還元できるか思考してまいります。

県議会議員の役割は県民の最大幸福量向上のためのより良い政策を立案、提案、審議し実現することです。本年も基本姿勢を堅持し地域の課題にも真摯に取り組んでまいります。今年が皆様にとって幸多い年になることをご祈念申し上げ新年の挨拶と致します。

【熊本城 FOCUS】

市議時代（2003～11）、熊本城の利活用について一般質問で諸々提案しました。

『**熊本城マラソン**』もそのひとつですが、その他に**天守閣での豪華宿泊や城内での飲食を伴う夜のイベント、早朝無料解放**等がありました。当時は文化財ということで縛りがあったのか、マラソン大会以外は日の目を見ることなく実現には至りませんでした。

それが今年4月から**市や県の主要事業に限定し、城内でのイベントが解禁**されることになりました。お城を上手く活用することで国内外に熊本独自の文化を積極的に発信し定期的な来街、宿泊が増加することで更なる魅力向上に繋がりたいものです。



田迎小学校創立150周年



11月30日、母校である田迎小学校創立150周年記念式典に参列しました。感銘を受けたのは全校生徒による記念音楽会です。低学年の可愛らしい合唱、3・4年生のリコーダー、メロディオンを使ったお馴染みの曲の演奏、そして5・6年生になると高学年らしいパフォーマンスを交えた器楽合奏の演奏で会場の体育館は鳴り響く拍手と歓声で大いに盛り上がったのでした。

振り返ると20数年前、私の子どもたちが通っていた頃の大きな問題は千人を超える生徒数でした。プレハブ校舎が常態化し、狭い運動場をより狭隘にしています。その実態が如実に分かるのが秋の運動会でした。入場行進は

おろか、全生徒による種目の時はまさに芋を洗う有様で我が子が何処にいるかも分かりません。観覧スペースもありませんので、くすのきランドに所狭しとシートが敷かれていました。当時、私はPTAの役員をしていたので保護者の皆さんから「子どもたちがかわいそう、なんとかできないのか」との悲痛な声を度々耳にしました。

そこでPTAで学校環境について保護者の真意を把握するためのアンケート調査を実施し、その結果、多くの保護者が分離新設を望んでいることが明確になりました。そしてこのことが私が市議に立候補するキッカケになりました。

その後、保護者の総意を熊本市教育委員会に訴え、現状を認識していただくために運動会当日、当時の教育長に足を運んでいただき厳しい状況を確認していただきました。以後、各種団体の皆さんの理解や地道な取り組みが功を奏し分離新設が決定し、田迎西小学校が誕生する運びになりました。



御幸木部町

田迎木原線



以前、御幸小学校校区・木部地区の住民の方から「田迎木原線に出る際、富合町方面に走行する車両のスピードが速くて右折、左折ともに難しい。速度を抑制する取り組みができないか」との相談がありました。

関係機関に調査・検討を依頼し、その結果、昨年11月末、ご覧のように木部地区の出入り口付近の路面に『破線』が表示されました。『破線』には幅員を狭く見せることによる減速効果が期待されます。これを機に走行する車輛には注意、減速していただきたいものです。

